



『アッ、消えた・・・!』 やばいっ!、大倉さんがクラックにはまったで!  
石野氏「板の先が見えたわ、大丈夫や」 恵「・・・」 私「そんな悠長な・・・ザイル、ザイル」  
一目散に10m後ろのクラックに向かってザイルを持って走る、すぐにブナの木にセルフビレーをとっておそろおそろクラックを覗き込むと、  
か細い声で「助けてくれ～」と、あのターミネーターみたいな男が意気消沈している。「大丈夫かあ?」 「膝が痛い・・・」 「動かせるのか?」  
「なんとか・・・」 「骨は折れてないか?」 「大丈夫のようや・・・」 「カラビナにこのザイルをつけて、板を外してザックを降ろして・・・」  
と指示。・・・まあこれで何とか一安心。あとはゆっくり板とザックを上げて最後に彼を引きずり上げる・・・無事レスキュー完了。



フィックスを張りトラバース練習並びに滑落停止訓練

種 目：山スキー  
山 域：兵庫県  
場 所：氷ノ山  
日 時：04.02.21  
コ ー ス：流れ尾根～山頂～東尾根  
天 候：快晴  
メンバー：石野・横小路・玉田・大倉・大塚・恵



こんなクラックに落ちた

それにしても、大倉氏が近づいたとたんに大型トラックほどの雪庇が剥がれ落ちそうになりそのクラックに運悪くはまってしまったのだ、しかし雪庇が雪崩となって落ちていたら彼も一緒に落ちてしまっていて命が無かったかもしれない、くわばらくわばら・・・。

後で彼に聞くと「ヒビが入ったような亀裂を見に行ったら、突然割れた」と、言っていたのには一同「おまえはア～ホ～かっ」と、恵ちゃんに「一人やったら死んでたで～、写真撮るの忘れたワ」の一言にさすがの大倉氏はもう一度亀裂に入りたいようであった(@\_@)。

場所は高度1100m付近の流れ尾根稜線である。以前5人が雪崩遭難死した300mほど下である。

今日のテーマは頂上付近の北斜面で50mのフィックスロープを張りトラバース訓練&滑落停止訓練。



テラス作り

雪質は連日の快晴で緩みがちだがさすがに1500m付近になるとますます締まっている。全員スコップを取り出しランチタイム用のテラスを雪かきして造っていると、単独登山者がアイゼンもピッケルも持たずに我々のトレースを踏んで登っ

て来ている、ちょうどテラス付近に差し掛かり大倉氏の真横を通過しようとした矢先、見事に滑落・・・雪が緩みがちでカップも着ていなかったのさほどスピードも出ず20mほどで止まった、しかし彼の動揺は隠せず息切れも激しく休み休みルートを変えて緩斜面の方へ取り付き何とか山頂稜線にたどりついてた。



北斜面を滑降の恵ちゃん

ランチも済ませて山頂より空身で先程の北斜面へドロップイン・・・5-6回ターンを切れば終わりなのだがやはり氷ノ山の北斜面は応えられませんね(^O^)。



最後に杉林の急滑降

さあ、いよいよ最後の杉林の急斜面ではブス雪に悪戦苦闘しキックターンでなんとかここも乗り切る。最後はグレンデを一気に下り降り終了！。

今日は石野氏が19時から用事があるためにそんなに遊んでいられなく早々に東尾根へと滑り込むが、午後からはだんだんと雪質がモナカ状態になってきてパワースキーが要求される。また東尾根稜線ではみんな意地でも板を脱がずに東尾根避難小屋まで頑張り通す。



流れ尾根名物>急斜面にあえぐ

わりに出来るので大変に心強い味方である。

それにしても横さん、玉ちゃんは東尾根を板を脱がずにきたのにはすごい上達です、これからが楽しみですね。

PS

危ないドラマが二つあったが、どちらも小さな不注意から死を招く要素がある。やはり雪山はなめてかからずフル装備が必要である。

フィックスロープ訓練では全員がスコップでピレー場所を作り、全員のBDストックはポール変